

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 平成13年度国立国語研究所公開研究発表会報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://repository.ninjal.ac.jp/records/2101">https://repository.ninjal.ac.jp/records/2101</a>

## 平成13年度国立国語研究所公開研究発表会報告

### 「言語データベース —さまざまな視点からの構築—」

開催日時：平成13年12月20日（木）13：00～17：30

開催場所：国立国語研究所講堂（研究発表会）、および2号館2階・3階の各室（研究室公開）

参加者：135名

国立国語研究所では年1回「公開研究発表会」を開催している。研究発表は、原則として、その年度に実施しているさまざまな調査研究の中から、一定のテーマにそった内容の課題を数件選んで行っている。今回は、研究所内外の最近の研究動向をふまえ、全体のテーマを「言語データベース —さまざまな視点からの構築—」とした。

大量かつ良質なデータにもとづく言語研究は、国立国語研究所が自らの特長として実践し、また目指す目標の一つでもある。平成13年4月の独立行政法人化に伴い、当研究所は研究開発部門、日本語教育部門、情報資料部門の3部門からなる組織体制に移行したが、言語データに対するこのような基本姿勢は、各部門に共通のものとして引き継がれている。

今回の研究発表会の特徴は、3部門それぞれからの研究発表3本に加えて、プログラムの中に十分な「ディスカッション」の時間を設けたこと、時間を延長してテーマに関連する「研究室公開」を行ったことである。これによって、研究発表が一方通行に終ることなく、実際のデータや機器に触れながら、楽屋裏の苦労話も含めて参加者との自由な意見交換ができるようにした。会場での反応やアンケート結果から見て、新しい試みはおおむね好評だったように思われる。

以下に、研究発表の題目とその概要、研究室公開の題目とその概要を示す。

#### 研究発表会（13：00～16：00）

##### 1. 「太陽コーパス」の構築による確立期現代語の研究（田中牧郎，研究開発部門）

現代日本語の確立期（19世紀末～20世紀初）の書き言葉を代表するデータベースとして、総合雑誌『太陽』を対象とする「太陽コーパス」を構築している。本コーパスの特徴は、確実な本文研究を行い、XMLによる構造化テキストを作成し、自在な検索システムを搭載するところにある。構築方法のあらままと、これを活用した研究の一端を報告した。

##### 2. 「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース」—設計と応用—

（宇佐美洋，日本語教育部門）

本データベースは、日本語学習者が書いた日本語作文とその母語訳、および日本語作文の添削を大量に収録したものである。データベースの基本設計について述べるとともに、収録されているデータを用いての対照言語学的考察の一例を紹介した。かつ、XMLによる添削情報の電子化や、音声版対照言語データベースの開発など、今後の発展計画についても述べた。

##### 3. 「全国方言談話データベース」による方言文法の研究（井上文子，情報資料部門）

1977～1985年当時の老年層話者の自然会話を収録した「全国方言談話データベース」について、

その概要と特徴を紹介した。また、このデータベースを用いた方言文法研究の一事例として、若年層の自然会話や多人数調査の結果と比較しながら、否定過去の「～しなかった」を意味する「～ナンド」の近畿地方での出現状況とその衰退の実態を示した。

#### 4. ディスカッション「言語データベース構築の難しさについて」(発表者・参加者全員)

司会 加藤安彦(研究開発部門)

### 研究室公開(16:00~17:30) 1~3は研究発表会の概要を参照

#### 1. 「太陽コーパス」の構築による確立期現代語の研究

(田中牧郎・笹原宏之・小椋秀樹・山口昌也, 研究開発部門)

#### 2. 「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース」—設計と応用—

(宇佐美洋, 日本語教育部門)

#### 3. 「全国方言談話データベース」による方言文法の研究(井上文子, 情報資料部門)

#### 4. 『分類語彙表』とテレビ・雑誌の語彙調査(山崎誠・柏野和佳子, 研究開発部門)

一般にも広く利用されている『分類語彙表』について、意味分類体の辞書とはどういうものか、どのような活用法があるのかなどを解説した。また、研究所の従来の大規模な語彙調査のうちから、テレビと雑誌を対象とした語彙調査について、調査方法、調査結果などを中心に紹介した。

#### 5. 『日本語話し言葉コーパス』の構築

(前川喜久雄・小磯花絵・籠宮隆之・菊池英明, 研究開発部門)

現代日本語の自然な話し言葉を大量に(約700万語)格納した音声言語研究用のデータベースを構築している。今回は、データベースの設計について解説するとともに、構築作業の実際を見学してもらい、これを利用することによって、どのような新しい研究が可能となるのか、予備的な研究の成果を紹介した。

#### 6. 日本語出版情報データベースの海外提供システム

(横山詔一・熊谷康雄・米田純子, 情報資料部門)

海外のごく普通のインターネット端末に日本語を表示させようとすると、漢字が表示できないなど難しい問題に直面する。その一つの解決策として、日本語の文字を画像で素早く表示できるシステムの研究を行っている。今回は、その実例として、約60万冊の書誌情報を含む『日本書籍総目録』(日本書籍出版協会刊)を海外から日本語で検索できるシステムを紹介した。

#### 7. 日本語教育支援総合ネットワーク・システム

(熊谷康雄, 情報資料部門, 柳澤好昭, 日本語教育部門)

日本語教育に関する情報や、日本語教育教材のための素材(映像, 音声, 写真, 印刷資料等)を、インターネットを通して国内外に提供するシステムである。平成13年度より運用を開始したが、今回は、各種情報の検索の実際や、提供している教材用素材を誰でも入手できるツールを使って教育に利用する事例について実演を行った。

企画統括担当 相澤 正夫(研究開発部門)